

# 有限会社 岡田工務店



## 清水屋旅館 様

ユーザー訪問

DATA

三戸郡南部町大字大向字泉山道49-1

2011年6月竣工(リフォーム)

■使用青森県産材/スギ(格子、柱)など。

青い森鉄道三戸駅の駅前に建つ、清水屋旅館。京町屋を想わせる格子を立てたたずまいは、垢抜けた新築旅館に見える。が、実は、100年以上も昔の明治初期の建物をリフォームしたものだと言って驚く。モノクロ写真に写る、大きな木造家屋がその当時の商人宿で、人力車に立っている和服姿の男性が、現在の4代目の曾祖父にあたる宿の主人である。製材業を営んでいた曾祖父が、地元材のケヤキなど銘木を惜しげもなく使った頑丈な骨格は昔のままに、外観は現代風に生まれ変わって今なお清水屋旅館は、町の玄関口に建ち続けている。

(リフォームの工事内容が、総合住生活企業(株)リーxml(リクシル)主催の「リーxmlメンバーズコンテスト2012」で地域優秀賞を受賞)

### ケヤキの柱と差鴨居 太い材が建物支える

女将さんの話 初めから旅館

だったのではありません。主人(現4代目)の曾祖父が、この駅前で製材の家業を営んでいまして、大きな家でしたから、駅に乗り降りする木材関係の業者さんとかリンゴの仲買人とかを宿泊させていたようなんです。それから製材業と商人宿との兼業の時期を経て、専門の旅館業へと変わってきたようなんです。

### 御主人の話

なにしろ古い建物だから、今までに内部はちよくちよく補修をくり返してきました。外観も一度、私が子供の頃に改修はしたんですが、それから40年も経っているので、リフォームしなければならぬ時期にはきていたんです。外観は旅館の“顔”ですから

ね、それを変わるとなると、大仕事です。

専務(岡田大作専務)に頼もうとは思っていません。専務とは12、3年前からの付き合いです。2人とも商工会の青年部に入っていて、私は40歳を越えましたが、専務は今所属していませんが、専務は三戸町、私は南部



商人宿を営んでいた頃の清水屋旅館



樹齢数百年のケヤキを使用した堂々たる風格の差鴨居さしがもい

町ちやう（合併する以前の南部町まな）の商工会青年部で、夏の「南部まつり」に彼が神輿担ぎの応援にきてくれたりしているうちに、意気投合するようになりましてね。

付き合いは長いのですが、それまで彼に大工仕事を頼んだことはありませんでしたし、いきなり大仕事を頼むまでには踏み切れませんでした。それで、まず、ちよつとした小工事を頼んでみて、様子を見ることにしたんです。それが旅館のトイレの改装だったんですが、いざ依頼したら、彼はこちらの期待以上の仕事ぶりをを見せてくれたんです。

感心したのは、センスの良さです。トイレの床の張り替えに使う材料の色合いを、トイレ全体の色調に照らし合わせて選ぶといった細かさを見せました。配慮というより、センスですね。センスの良さは、見学に連れて行ってもらった三戸町の現場で感じました。築60年とい

う古い農家の居間をリフォームしたそうなんです。新築並みの垢抜けた出来栄えでした。妻（女将さん）もすっぴん入り入って、彼に大仕事を頼むことに決めたんです。

## 建物や街並は地域財産 引き継ぐのが地産地消

**女将さんの話** 建設関係の仕事の方がお泊りになったとき、玄関の正面とか、食堂に架かっている太い梁をご覧ください、すごいなあ、って感心していました。その方が言うには、これは鴨居かまどいと梁が一体になった「差鴨居」というもので、使われているケヤキの木は、樹齢数百年の太い樹から挽いたものだそうです。台所の床の一枚物の板も貴重なもので、昔は玄関も廊下も同じ一枚物だったんですけどね、さすがに傷んできて張り替えたいんです。差鴨居も、台所の床板も、使えるうちは大事に手入れしていくつもりです。

**ご主人の話** 製材業が盛ん



アメ色に輝き、時の流れを感じさせるケヤキの柱

だった時代に、今の一般住宅の柱や梁などより一回りも二回りも太い、しかも自然乾燥させた木材をふんだんに使って、大工たちが時間と手間をかけて念入りに建てたからこそ、100年以上も長持ちしているのでしょう。

**女将さんの話** 若い人もけっこう泊まりにこられるんですよ。若い人ならホテルのほうが

いいと思うんですけど、「古いところがいい」とおっしゃるんです。ホテルならたいがいどこもワンルームにユニットバスが付いているだけだけど、この旅館には「歴史」が残されているから、と言われて、玄関の差鴨居とか柱とか、それと昔は結婚式場にも使われていた120畳の大広間とかを写真に撮ったりしてね。それと、街並みです



その昔、結婚式場として使用していたという120畳の大広間



昼と夜とでその表情を変える宿のシンボルとも言える紅色の格子



ご主人の純さんと女将の純さん

■清水屋旅館  
 青い森鉄道「三戸駅」より徒歩1分  
 電話 0179-23-3671  
<http://www6.ocn.ne.jp/simizuya/>

ね。真向かいに「国登録有形文化財・村井家住宅「主屋」<sup>しほおく</sup>」がありますし、その隣にも、うちと同じころに建った旅館の建物が残っています。そういう歴史ある建物を訪ねてこられる方も多いですよ。

**ご主人の話** 建物にしても、街並みにしても、残されているものを地域の財産として大切に引き継いでいくことが、地産地消の原点だと思っんです。曾祖父から父へ、父から私へ、次は私から息子へ、となるといいですけどね。

**OK 有限会社 岡田工務店**

三戸郡三戸町大字川守田字東張渡48-1  
 TEL.0179-23-6727 FAX.0179-23-6728  
<http://www14.plala.or.jp/bigmake/>  
 E-mail : okada.office@orchid.plala.or.jp



# 有限会社 織笠工務店



## 『湖が見える家』

貸家

DATA

上北郡東北町

2012年9月竣工

■延べ床面積/20坪(66.24㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、内壁)、スギ(柱)、カラマツ(梁、外壁)など。

リビングの掃き出し窓から、東側に小川原湖が望める『湖が見える家』。東北町を走る県道8号(八戸野辺地線)沿い、「道の駅おがわら湖」の斜め向かいに建っている切妻屋根の平屋がそうである。カラマツを使った羽目板張りの外観で、一般住宅に見えるが、貸家である。施主は、上北町駅のそばで製材業を営む中野晃治さん(尙)中吉製材所社長)。施工したのが、同町の(尙)織笠工務店である。織笠拓重社長が、青い森鉄道沿線の道を車で現場へ案内してくれた。

玄関に入ると、右手に洋室がある。左手にはトイレ、洗面、浴室の水回りがまとまっている。玄関ホール正面のドアを開けると、広いワンルームのLDK。リビングに続いて和室が1室、キッチンの隣にも洋室が1室ある。全部で3LDKだ。「ここから小川原湖が見えるんですよ」

そう言って、織笠社長が掃き出し窓の前に立った。遠くに筆



リビングに続く和室にも一般住宅並みに県産材が使われている



小川原湖が望める広いワンルールのLDK

で横に引いたように見えている青色が湖面である。

織笠社長と中野社長は仕事仲間だ。同じ地域の工務店と製材所がタイアップして地元木材の地産地消に取り組んでいる。4年前(2008年)の第1回『あおもり産木造住宅コンテスト』で優秀賞を受賞した応募作『大草原の小さな家』みたいな家に住みたい(十和田市)住宅

が、中野さんの自宅で、施工したのが織笠工務店。外壁はカラマツ、柱や梁もカラマツで、内壁はヒバ。すべて県産材の家である。今回建てた貸家も同様に外壁はカラマツ、リビングの腰壁にはヒバを張っている。

貸家の造りは、建築費を抑えるために外壁は大工手間のかからないサイディング張り、室内も壁や天井はクロスを張るのが一般的だ。構造材も、安い外材を使用するが、



リビングの腰壁にはヒバが張られている

持家と同様に貸家の外壁にカラマツの板を1枚1枚手間をかけて羽目板張りをし、構造材に県産材を使用しているところが、こだわり"なのである。中野さんはこう話す。「県産材の家を増やすには、まず地元の木を知り、木に触れることから始めなければなりません。木に親しむ環境づくりですね。いきなり県産材といっても、日常の生活で木と触



カラマツの板を1枚1枚手間をかけて張られた外壁



外材に代わって一般住宅に使われ出してきたカラマツ

れ合っていないければ、親しみが  
わくはずがありません。世間一  
般には、工場生産の合板や集成  
材が「木」だと思われているので  
すから、山の木となると意識か  
ら遠い存在なのです。今の時  
代、子供の頃のおもちゃといえ  
ばプラスチック製で、学校の校  
舎は鉄筋コンクリート、住んで  
いる家も床は合板フロア、壁、天  
井はクロス、テーブルや机も張  
り物で出来ているのだから、無  
垢の木というものが生活の中  
にないのです。そういう生活で

育つて大人になって、さあ家を  
建てようというときに「県産  
材」という選択肢がないわけ  
ですよ。今回の貸家に県産材を  
使ったのも、そうした思いから  
なんです。この貸家に住んで、や  
がて自宅を建てようという  
きに、貸家で毎日接していたヒ  
バの色合いや、良い匂いが気  
に入っていたから自宅の腰壁にも  
ヒバを張る、といったふうにな  
ってほしいと思いませんか。人  
の心にも木を育てなければなり  
ません」



目の細かなカラマツの原木(中吉製材所)

育てなければならぬのは、大工も同じである。職人の世界も高齢化が進んでいるのだ。織笠社長によると、東北町や七戸町、十和田市など上北周辺地域の大工の平均年齢は56歳だそうである。41歳の織笠社長は若手になるという。新人が育つ

ていないのだ。その対策として織笠社長は、今年(2012年)の春に新弟子を1人入れた。新入社員を1人雇用したのである。その経緯についてこう話す。

「雇ったのは、十和田工業高校の卒業生で、まだ18歳です。彼

が、卒業したら大工になりたい、と職業能力開発校(昔の訓練校)に相談して、そこからうちに、大工になりたい生徒がいるがおたくのところへ受け入れてもらえないかと電話がきたんです。育てなければ職人も減るばかりですから、採用することにしました。工務店も企業と同じで、経営的にある程度先が見通せなければ新人の採用は見合いませんが、そこはやはり企業努力して、新人育成に経費を割かなければ建築業界が先細りになってしまいま

す。採用期間は5年間で、そのうち3年が訓練校、2年が現場です。訓練校は週に1回、あとは現場に入ってもらいます。彼には今回の貸家の現場でも働いてもらいました。働くといっても、もちろん玄能(カナヅチ)やノミやカンナを手にするのはまだまだ先のことで、掃除など雑役が主です。高校出たてで、親の庇護のもとから世間で放り出されたばかりだから、甘えが抜け切っていませんが、そこは厳しく躰(たづ)げます。訓練校に遅刻したときも、まずは親方の私が先生に謝り、彼からも謝罪させます。現場で働いて体のあちこちが筋肉痛だろうからつい起きられないこともあるんでしょうけど、厳しく育てなければモノになりません」

厳しい環境を生き抜かなければ一人前に育たないのは、山の本と同じだ。厳しさを通じて、織笠社長の県産材の家づくりが弟子に伝わっていくのである。

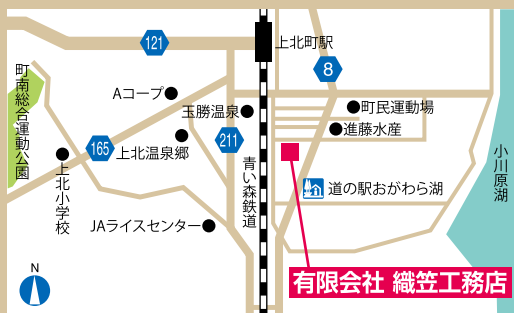
東北町

**有限会社 織笠工務店**

上北郡東北町旭南1丁目384-1

TEL.0176-56-3915 FAX.0176-56-4195

E-mail: orikasak@r66.7-dj.com





# 有限会社 キーポイントホーム



## H 様邸

## ユーザー訪問

### DATA

弘前市取上

2011年9月竣工

■延べ床面積/59坪(195.40㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、和室建具、デスクカウンター)、スギ(柱、床、腰壁)、カラムツ(梁)、タモ(造作家具、建具)など。

家づくりは「木」が大事。その思いを社名に込めたキーポイントホームの「木」とは、県産材を指す。土台や柱、梁などの構造材を始め、廊下や居室の床には保温性の高い無垢のスギを張るなど、木の特性を生かした家づくりに徹している。近くの山で育った木だからこそ、同じ地域に住む私たちにも馴染む——そう考えるキーポイントホームの木の家には、住宅雑誌を通じて、共感するように魅力を感じたのが、今回紹介のH様である。

## 床はスギ、家具はタモ 書斎のデスクにはヒバ

ご主人の話 昔から木が好きでした。と言っても、子供の頃からというのではなく、印象深いのは中学のときですね。技術の時間に木で箱とか本棚を作ったんです。スギやヒバや、カツラとかブナを使ってたね。そのときに教室に立ち込めた木の匂い

が好きでした。特にヒバの清々しい匂いが好きでしたね。中学の頃は青森市に住んでいて、休

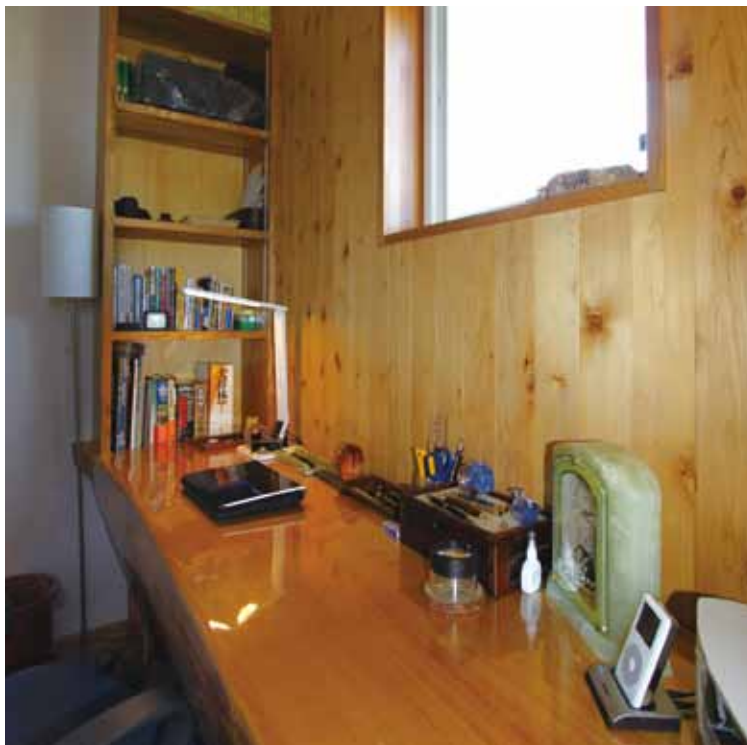
日に津軽半島の眺望山へサイクリングに行ったときに、山から伐り出されたものらしい細い



ヒバやスギをはじめとして、アカマツやタモなど各室には数多くの県産材が使用されている



カラマツの梁、スギの床板、タモの建具やテレビボードの美しい木目が部屋のアクセントになっているリビングルーム



ご主人の要望で取り付けられた厚さが10センチもあるヒバのデスクカウンター

丸太が積まれてあるのが目に留まって、近づいて匂いを嗅いでみたら、ヒバでした。思春期に印象に刻まれたものつて大人になつてからも愛着がありますよね。私には、このヒバの匂いがそうです。それで、プラン打ち合わせのときから、私の書斎にはヒバのデスクカウンターを付

けてほしいと要望していたんですが、阿保さん（阿保勝之社長）が1年がかりで10センチも厚さのある逸材を見つけてくれました。

**奥様の話** リビングに置くタモ製のテレビボード一つにしても、主人は1か月くらいかけて阿保さんと打ち合わせしまし

たよ。市販の家具を置くのと違って作り付けは簡単に移動できないから、将来、大型テレビに買い替えることも考えて、寸

法にも余裕を持たせるとか、いろんなパターンを検討しました。洗面化粧台の高さもそうです。既製品は高さが80センチと

決まっているそうなんです、10センチ上げて90センチにしてみました。腰に負担がかからず、とっても使い良いですよ。



奥様のお気に入りだという2階のフリースペース。家族の団らんの場にもなっている

**ご主人の話** 青森市の母を呼んで同居するために家を建てることにしたのですが、阿保さんとお会いする前に、実は、ある工務店と話を進めていたんです。展示場が何棟か並んで建っているハウジングパークを見学に行った際、木を見せた造り方をされていて、気に入りました。ところが、作り付けの家具の打ち合わせになったら、歯切れが良くないんですよ。全国展開している工務店なので、注文に応じるというよりは、規格品で作るシステムになっているのですね。キーポイントホームはまったくその逆で、お客の要望にきめ細かく対応してこそ注文住宅だという姿勢を示してくれました。そこが分かれ道でした。

## くつろげる家族ルーム 真ん中に木のテーブル

**奥様の話** 2階のフリースペースが、わたしのお気に入りなんです。家族皆で使っていて、



壁の本棚には主人の本もあれば子供たちの本も並んでいきます。真ん中に置いてある大きな木のテーブルが重宝で、2人の

子供たちがそこで勉強したり、宿題の習字を書いたり、わたしはアイロンがけをしたり……。それぞれが思い思いのことをしながら会話もできるし、くつろげる“家族ルーム”ですね。自分の部屋はそれぞれあるんですけど、テーブルに引き寄せられるみたいに集まるんですよ。

2012年にオープンした泉野常設展示場「地域ブランドの家」の内観

**ご主人の話** リビングの床は、最初は床暖房を検討していましたが、でも、阿保さんのお客様のお宅を拝見させてもらったときに、「無垢の床はあったかいから床暖房は必要ないです」って言われたんです。実際にそのお宅は床が無垢のスギで、足の裏が柔らかいし、温かいし、スギの良さを実感しました。

**阿保社長の話** 2012年9月に、弊社の住宅展示場がオープンしました。場所は弘前市泉野です。泉野常設展示場『地域ブランドの家』と名付けました。構造材にも内装材にも認証青森県産材を使っています。床のスギは西目屋産で、厚さは1階が30ミリ、2階が20ミリ。使い分けているのは、足から伝わる感触の違いを体感していただくためです。無垢の木材に合わせて1階の内壁には珪藻土、漆喰の自然素材を塗っています。

外張り断熱による遮熱・気密性の高さは、室内に入れば肌で実感いただけるはずです。オール電化パネルヒーターによるヒートポンプ暖房や、屋根一体型のすっきりした太陽光発電パネルを設置して省エネ化を図っています。

地球環境に配慮した家づくりを提案する仕様になっていますので、ぜひご見学のうちえ参考にしてみてください。



## 有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
www.ki-pointhome.com/  
E-mail: staff@ki-pointhome.com

地域ブランドの家  
泉野常設展示場オープン



# 建築組パックス 有限会社

## 成田 和久 様邸 **ユーザー訪問**

DATA

上北郡おいらせ町

2012年9月竣工(リフォーム)

■中古住宅(60.00坪)のうち20.00坪(66.24㎡)  
をリフォーム

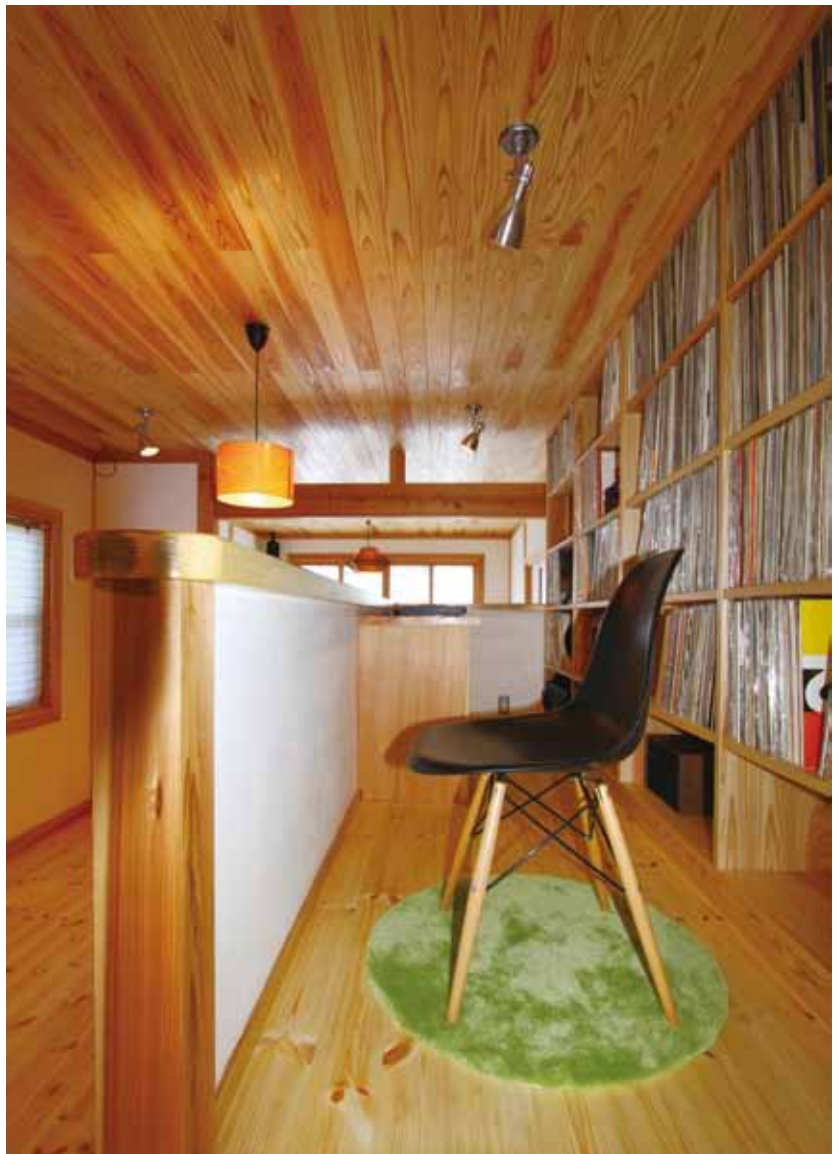
■使用青森県産材/スギ(柱、梁、額縁、建具、作り付け棚)。



中古住宅をリフォームする方が、高性能で狭い家を新築するよりは、広く暮らせる——成田和久様はそう考え、築35年の平屋を購入した。延べ60坪のうち20坪をリフォームする計画だが、ただ「憧れの無垢材を

使った木の家がリフォームで出来るかどうか」が懸念だった。夢を込めて自ら描いた設計図を手に相談に訪れた先が、「県産材による地産地消の家づくり」を看板とする建築組パックスであった。

**見学した木の家に圧倒  
リフォームで夢実現へ**  
ご主人の話 3部屋の続き間を通しにして、ワンフロアの広い板敷きにする計画を立てました。北側にキッチン、南側に



ご主人の趣味のスペースとして設けられたDJブース。この夢を叶えるためにリフォームした



奥の和室まで見渡せる広々としたスペース(リフォーム前は3部屋の続き間だった)

畳を敷いた客間を設け、その中間に、床を70センチ上げたDJブース(レコードブース)を設けます。そこは私の趣味のスペースで、壁面の作り付けの棚には、高校時代から集めてきた約2000枚のジャズのLPレコードを収める。そんなことをあれこれ思いながら、少しずつ平面図を描き進めていきました。

三沢市に完成した住宅を拝見する機会があつたのは、その頃のことです。玄関に入ると、洋風の外観からは想像できなかった古民家風な室内に目を



床を70cm上げたDJブースの下は収納スペースとなっている

を眺<sup>み</sup>る思いでしたね。太い大黒柱や現わしの梁、床も天井も板張りの木の空間に圧倒されました。キッチンの食器棚も作り付けでしたし、家全体が手作りです。建てた工務店が、パックス(建築組パックス(株))でした。パックスの名前は地域の情報紙や『青森県産材でエコな家づくり』の本などで知っていました。三沢のこのお宅を拝見したからは、身近に思えるようになりましたね。

**奥様の話** この三沢の家のことを主人は帰宅すると興奮し



手づくりがうれしい台所の収納家具。本物の板は木目が1枚1枚違う

た口ぶりで話していました。よほど気に入ったんでしょう。でも、新築なら無垢材を存分に使った建て方は出来るけど、リフォームでは無理なのでは。そこで主人は思い悩んでいるふうでしたので、とにかく一度相談してみようと、一緒にパックスを訪ねたのが今年(2012年)の5月でした。事務所の隣の展示場で初めて大西さん(大西昇社長)とお会いしました。

ホームページの顔写真から抱いていたイメージよりは気さくなお方で、なんとなくホッとしました。大西さんは耳を傾けるようにじっくりとリフォームの相談に乗ってくれました。

**大西社長の話** リフォームの場合、古い部屋が単に新しくなれば良い、と考える人と、味わいある住み心地を求める人に分かれますね。内装を変えるだけなら、石膏ボードにクロスを



スギの質感も楽しめる和の空間



建具も新調したリビングはまるで新築のよう

貼れば新しくなるし、コストも安く上がる。成田様の場合、後者でした。こういう設計にしたい、とご自身で描いた設計図を用意していたところに気合いを感じましたね。リフォームで夢を実現したいという思いが、打ち合わせしていて強く伝わってきました。請け負う側としては、施主の念願をなんとか叶えてあげようと力が入る。腕の見

せ所ですね。新築の家と同様に、無垢の木材と漆喰壁で仕上げることになりました。

### 自分の家でないみたい 新築並みに驚きと感激

**奥様の話** 3人目の子供が生まれて、病院から家に帰ってきたのが9月(2012年)18日でした。退院予定に合わせて工期は決めていたんですが、ちょ



隠れた部分に活かされている宮大工ならではの“継手”の高度な技術(DJブースの土台)

うど退院した日に工事が完成していたのですから、どんぴしゃりです。新しくなった部屋を見たときは、びっくりしたっていうよりも、自分の家じゃないみたいでしたね。入院中に、主人が工事中の写真を携帯に送ってくれていたのですが、でも、画面の小さな写真からは実感がかめませんでした。驚きと感激はテレビ番組の『劇的リフォームアフター』みたいでしたよ。主人のDJブースの下に付いている収納の戸の木目が1枚1枚みな違うし、入口のドアの

回りや窓の回りの木(額縁)も太くて立派だし、木肌の色も綺麗だし、まるで新築の家でした。こう変わるとは思いませんでしたね。

### ご主人の話

リフォームが完了してから、大西さんに写真を見せられて大いに感心したことがあります。床を高くしたDJブースの「土台」の写真です。家の土台と同じに、板を長方形(3.2×1.5メートル)に組んで、その上に角材を立てたのですが、その長方形のコーナーの部分が、ふつうなら45度にカットして釘かビスで止めるところを、金物を使わずに、宮大工ならではの“継手”の技術で組んであるんです。

土台は、完成してしまえば目に見えない部分ですけど、見えないところに高度な技が生かされていると知ると、その他すべての工事内容に絶対の信頼が生まれてきますよね。それが住み心地の良さにしっかりとつながっています。